

Ubuntu を実際に業務で使ってみて

—ユーザーの証言—

Ubuntu 導入の事例は、Ubuntu 公式サイト(英文)に豊富に掲載されています。また、Ubuntu をインストールした実例や Ubuntu を使っているという情報は、Web やブログを検索すると無数に出てくるでしょう。けれど、実際に業務で使用してどうだったのか、その率直な感想を日本語で書いた資料はなかなか出てこないものです。

そこで、ここではその実際の使用経験をユーザー自身の言葉で確かめていただきましょう。

翻訳エージェントの業務

——私は、英和・和英を専門とする小さな翻訳事務所で、翻訳者のマネージメントその他の業務全般を担当しています。Ubuntu を使いはじめたのは 2006 年のことでした。それ以前は Mac を使っていたので、もともと世間一般の Windows ユーザーとの互換性には苦勞していました。だから Ubuntu に移って、むしろ Windows との互換性が高いことで助かったほどです。実際にはその少し前から Mac の世界でもどんどん Windows との互換性が高まっていたので、私が時代に乗り遅れていただけなのかもしれません。

翻訳者との連絡は基本的にメールです。メールの送受信は Windows 環境で行うのと全く変わらないので、何の不便もありません。事務所内の業務(伝票発行や経理処理等)には OpenOffice を使います。対外的には PDF に出力するので、OpenOffice を使っていることはもちろん、Ubuntu を使っていることさえ外部からは想像もできないはずです。

互換性で悩まされる可能性があるのは、クライアントから Word や Excel の文書を原稿として受け取ったときです。基本的には OpenOffice の互換機能で読めるのですが、念のため Wine で動作する MS Word Viewer や Excel Viewer で開いて確認します。唯一困るのは OpenOffice のワードカウント機能が MS Word のワードカウントとちがうことで、これは請求の基準ですから、このためだけに Word を Wine で動作させています。

起動は早いしレスポンスはいいしハングアップは起きないし、Ubuntu には本当に言うことはありません。Windows はもちろん、Mac に戻るつもりもありませんね。

Web ショップ運営

——生鮮食品を販売する Web ショップにサイト管理者として採用されたとき、まず上司に許可を求めたのは Ubuntu を使うことでした。前任者は XP に Adobe の Creative Suite をインストールして使っていました。それが Web 業界の標準です。けれど、Adobe のアップグレードサイクルについていく予算が会社になかったためかやや古いバージョンのソフトだったので、それならばオープンソースで揃えたほうが業務が捗ると考えたのです。

マシンパワーに余裕があったので、仮想環境をつくってその上で Ubuntu を走らせました。

Windows 環境下のブラウザで動作確認を行う必要性もあったからです。本当は Ubuntu 上の仮想環境に XP をインストールしたかったのですが、Windows のインストールディスクが見つからなかったのをやめました。デュアルブートでは、Ubuntu で作業しながら Windows で動作確認という並行作業ができないので、仮想環境にしたわけです。ただし、実際には、Ubuntu 上の Firefox で確認するだけで十分でしたね。最新のブラウザの環境依存性は非常に低いことがよく

わかりました(IE6のようなレガシーなブラウザは相手にしていなかったの)。ショッピングモールのサイト管理機能も、Ubuntu上のブラウザで100%問題なく動作しました。ローカル環境に依存しないので当然といえば当然ですけど。

ローカルネットワーク内のファイルサーバーにも簡単にアクセスできました。唯一問題だったのは、ファイルサーバー内の文書へのパスの表記がWindowsとLinuxで異なっていることです。ですから、ファイルサーバー内の文書の所在をリンクで他のユーザーに教えることができませんでした。これはミーティング時などに不便でしたね。

Ubuntuの有利さを実感したのは、大量の画像データやテキストデータを一括処理するときでした。コマンド、やや複雑な場合はスクリプトで一気に処理できるので、作業効率が上がりました。仮想環境ではなく実機にインストールすればもっと効率が上がったと思うのですが、上司の許可が得られなかったのが残念です。

一般事務職

——3ヶ月前に採用されてすぐ、与えられたノートパソコンにUbuntuをインストールしました。職場にはITに詳しい人がなく、責任者に「無料のソフトをダウンロードしてインストールしてもいいでしょうか?」と尋ねたらOKが出たので、Ubuntuをインストールしました。拡大解釈だったとは思いますが、インストールしてよかったと思います。

というのは、与えられたパソコンが遅いことで有名なVistaだったからです。正直いって、あのまだるっこしさではまともな仕事はできません。Windows7だったらUbuntuを使おうとは思わなかったでしょう。ひよっとしたらあのVistaはウイルスか何かに感染していたかもしれません。動作がどうもおかしかったですから。

パソコンの使用はメールとインターネット、あとはエクセルの入力です。エクセルはLibreOfficeのCalcを使っていますが、入力には不便はありません。ただ、たまに開けないファイルがあるのは困ります。エクセル2010でつくったファイルの一部です。これは、Windowsのエクセルで開いておいて、こっそりファイル形式を下位互換形式に落としておきます。そうすると、Calcでも問題なく編集できるようになります。

はじめのうちはプリンタの設定の仕方がわからずに困っていましたが、あるとき何気なく操作したら動くようになりました。スキャナもそうです。できないことは、ただやり方がわからないだけなのかもしれません。

一度、部署のほかの人が私のパソコンを覗き込んできたのでヒヤッとしたのですが、Ubuntuだとは気づきませんでした。アプリケーションの中にはいつてしまえば、WindowsもLinuxもわからないものなのですね。Ubuntuはもともと入っていたVistaとデュアルブートでインストールしてあって、Vistaが優先される設定にしています。だから、私のいないときにほかの人が私のパソコンのスイッチを入れても、起動するのはVistaです。Ubuntuを使っていることはだれも知らない私の秘密です。